



●はじめに

駒大相撲部は1929(昭和4)年に創立された約100年に及ぶ歴史と伝統を誇る。創立当初の相撲部は「角道部」と称され、部員たちは駒澤大学ならではの禅の心「角禅一味」を掲げ相撲道に進んでいた。戦後、その名を相撲部と改めてからは部員の活動場所として1962(昭和37)年に武田道場が整えられた。1971(昭和46)年には、大学初の学生横綱が誕生し、駒大相撲部の名は学生相撲の歴史に刻まれることとなった。

展示では、武田道場や学生横綱にかかわる資料にくわえ相撲部OBが書き記した『駒沢大学相撲部史』を頼りに駒大相撲部の「あしあと」を辿る。相撲部の活躍とその「あしあと」、学生相撲の魅力を学内外に伝える機会となれば幸いである。

●『駒沢大学相撲部史』と駒大相撲部

『駒沢大学相撲部史』(駒澤大学図書館所蔵)は、全24巻(途中、上下巻。全43巻)からなる部史である。編集兼著者の相撲部OB石田堅丈は、「相撲部史」編纂の経緯を以下のように記している。

「私は曾て卒業の春、『駒沢大学相撲部史』と題し、お粗末乍ら原稿用紙二〇〇枚綴(一冊)を三巻もの〔に〕し、後に続く人々へのせめてものし



『駒沢大学相撲部史』

をりとして道場にのこしたものである。が、戦争中のドサクサで、之が紛

失したと謂う。私は、戦後之を聞いて、何か之に代るものを略記しておきたいと考えていた。〔中略〕そしてまた、何かこうして追憶・随想記を書きおきすることによって、現在の隆盛の礎となって卒えて行った人々や、不幸にして戦歿された仲間達のさ、やかなはなむけ乃至供養塔と考えて見たい」(第一巻、p4)。

石田は、1938(昭和 13)年に駒澤大学東洋学科を卒業した後、陸軍士官として敗戦を向えた。戦後、曹洞宗寺院の住職、会社員を務めるかたわら、1968(昭和 43)年から毎年「相撲部史」を発行した。1972(昭和 47)年には、学生相撲やアマチュア相撲大会を統括する団体である財団法人日本相撲連盟の設立発起人として名を連ねている。

1979(昭和 54)年には、「相撲部史」とは別に創立 50 年の節目として『駒澤大学 相撲部五十年史』が刊行された。大学相撲部単独の年史としては駒澤大学のほかに、『明治大学相撲部 100 周年記念誌』(明治大学体育会相撲部、2005 年)、『早稲田大学相撲部八十周年史』(早稲田大学相撲部、1999 年)が各大学によって編纂されている。一般的に大学史の一部として相撲部の活動が記される例が多い中、一部活の年史が膨大な史資料により編纂されたことは稀有な例である。

『駒澤大学 相撲部五十年史』の序には、相撲部と縁故の深い秦慧玉(1896-1985)による揮毫が寄せられている。「いつもまよわずまっしぐらに進め」の意が込められた「驀直去」(ばくじつこ)の文字が寄せられた。

●相撲部の創立

駒大相撲部は 1929(昭和 4)年に、相馬一男(1909-1975)の尽力によって創立された。当時、剣道・柔道・弓道部は活動していた中、相撲部は組織されず「相撲同好会」(五十年史、p57)が存在していた。その「相撲同好会」の中心人物が相馬であった。創立以前は「校庭の片隅に露天土俵を築いて我流の稽古をやっていた」ようである(第一巻、p7)。従来、相撲は特別な施設も道具も必要がなく、猫の額ほどの土地でも円を描けば相撲を取ることができた。そのため、大学内では部活動として組織化せずとも不都合はなかったのだと思われる。剣道部や柔道部の腕自慢や相撲好きが折に触れて相撲を取る、もしくは相撲部が組織されていても柔道部に並置されているに過ぎなかった。「創立の立て役者」である相馬も元は柔道部員であり、駒大相撲部も以上のような状況であったのだと推測される。

相撲部の創立と前後して、部として組織されていなかった野球部・庭球部・拳闘部も創立された。昭和初期に相次いだ運動部創立の背景には、当時の学監光山百川(在任期間：1928～1932 年)の存在があった。学生の多くが寺院の子弟であり、大学内の運動部に対する理解が必ずしも深いとは言えない中で、「古武士的風格」の光山百川は数少ないスポーツの理解者であったという(五十年史、p61)。「創立の立て役者」相馬とスポーツの理解者であった学監の存在によって、相撲部は創立された。

1929 年の創立当初の相撲部は、学友会の「新参者」でもあった。学友会とは学生のみで結成さ

れた自治組織であり、学友会の重要な自治のひとつとして予算の割当があった。予算の割当は、学友会会員学生が納入した会費を、学友会に所属する各部活の活動費として分配する方法を取っていたが、「新参者」の予算申請は思うようにはいかなかったようである。しかし、相撲部は「立て役者」相馬一男の「学内政治力？」と張ったりで、学友会内の仲間を巧みに、或は強引にまらめて予算を獲得した。創立当初から剣道部や柔道部と同額またはそれ以上の予算を獲得した相撲部は、学友会運動部内で「上位クラス」に連なった（五十年史、p59~61）。

●駒大相撲部 @玉川キャンパス

現在、相撲部の活動場所は玉川キャンパスグラウンドの一面に所在している。2006（平成 18）年に現在の場所に移転されるまで駒沢キャンパス内にあり武田道場の名で親しまれた。武田道場の名前は、相撲部「中興の祖」武田義一（1913-1961）に由来する。道場は通学路に面しており、学生たちは相撲部員の稽古廻しが干されているのを横目に通学していたという。

玉川キャンパスでの相撲部員の生活は早朝の稽古にはじまる。稽古は 10 時半ごろ終了し、その後土俵の清掃、入浴を経て相撲部屋の食事「ちゃんこ」となる。

道場内には、歴代の監督・部員の名が書かれた木札や大会トロフィー、武田道場の看板があり、「駒大相撲部のあしあと」を感じ取ることができる。歴代監督の木札には、駒大相撲部の黎明期を支えた「創立の立て役者」相馬一男、「中興の祖」武田義一の名が掲げられており、現部員の毎朝の稽古を見守っている。



解体前の二代目武田道場



玉川キャンパス・相撲道場外観



道場壁にかかる木札

付記：展示開催、リーフレット作成にあたっては、駒澤大学相撲部監督・下谷内勝利先生をはじめ部員の皆様にご協力賜りました。改めて御礼申し上げます。

【主要参考資料】

- ・『駒澤大学相撲部史』全 24 巻（1968-1988 年）
- ・『駒澤大学 相撲部五十年史』（駒澤大学相撲部五十年史刊行会、1979 年）
- ・『東日本学生相撲連盟五十年史』（東日本学生相撲連盟、1975 年）
- ・『凌霜外史』（校史出版、1967 年）
- ・『和歌山県立和歌山商業学校三十年史』（和歌山県立和歌山商業学校校友会、1935 年）

大学史特集展 24・リーフレット
駒大相撲部のあしあと

2022 年 4 月 18 日

駒澤大学禅文化歴史博物館